

別紙—4

【記入方法及び留意事項】

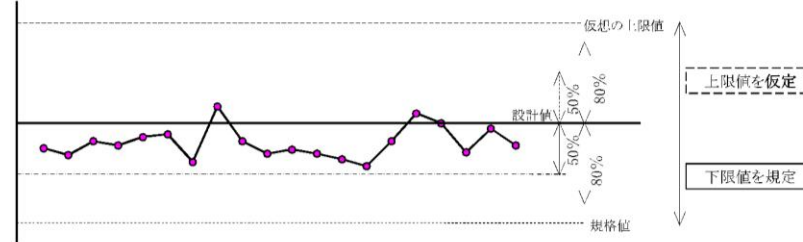
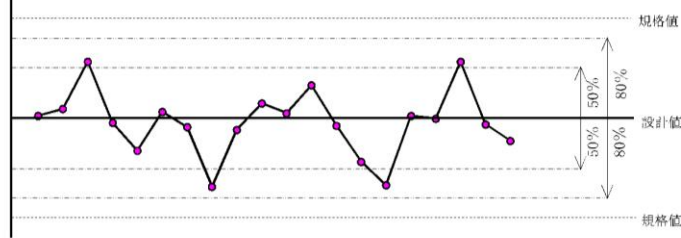
1. 出来形及び品質のばらつきの考え方

「管理図の場合」

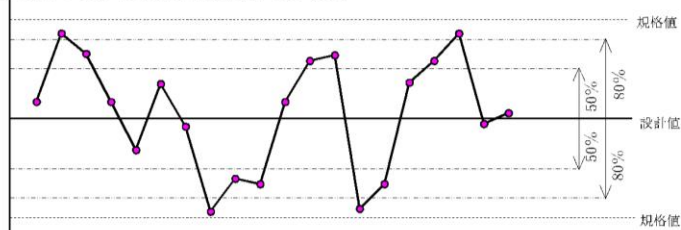
(上・下限値がある場合)

(下限値のみの場合)

①ばらつきが50%以下と判断できる例



②ばらつきが80%以下と判断できる例

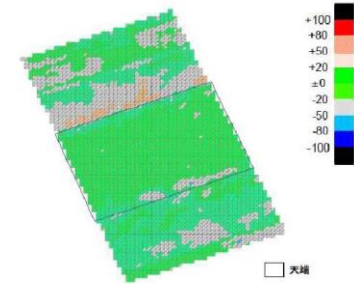


③ICT 活用工事の例

出来形合否判定総括表の分布図や計測点の個数によりばらつきを判断
ばらつきが50%以下と判断できる例

天端データ総数	1000
法面データ総数	1700

天端のばらつき	規格値の±80%以内のデータ数	1000
	規格値の±50%以内のデータ数	997
法面のばらつき	規格値の±80%以内のデータ数	1700
	規格値の±50%以内のデータ数	1360

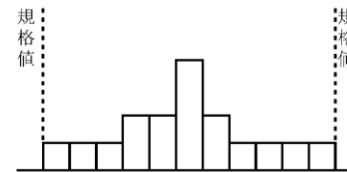
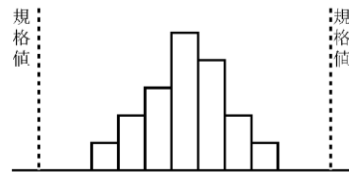
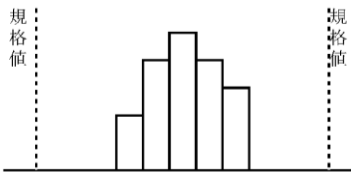


「度数表またはヒストグラムの場合」

ばらつきが小さい

ばらついている

ばらつきが大きい



2. 多工種複合工事の取り扱い

- (1) 主たる工種で評定する。なお、多工種で評定対象が重要な場合はこの限りではない。
- (2) コンクリート橋は、プレテンション桁等、工場で作成される構造物も対象とする。
- (3) 評定は「合併工事」欄を活用する。

3. コンクリート構造物のクラックについて

- (1) クラックが発生した構造物では「進行性または有害なクラックがなく、発生したクラックに対しては有識者等の意見に基づく処理をしている」等が見られたら、C評価とする。
- (2) 「進行性または有害なクラックがある」場合、無処理の場合は、状況に応じて、dまたはe評価とする。

4. その他

- ・ 「施工プロセスチェックリスト」を活用して、評定を行う。
- ・ 「5. 創意工夫」「6. 社会性等」は、受注者から提出された実施状況に関する書類を活用して、評定を行う。